

令和2年1月8日

令和元年度冬季休業明け 校長あいさつ

新しい年、令和2年を迎えました。心意気も新たに過ごしていきましょう。

まず、大きな事故もなく、皆さんが再び学校に戻って来ることができたことを大変うれしく思います。

ところで、冬休み前の集会で皆さんにお願いした「取手一高に入学した事が一番誇れる」ような生活ができた冬休みであったでしょうか。この点をまず自分自身で確認してください。

さて、年初め1月6日に、校内を歩き回っていたときのことです。廊下で一人の女子生徒さんに出会いました。「お正月はどうでしたか？」と尋ねると「無事に過ごせました」と笑顔。

彼女は、何気なく「無事に」と話してくれたのかもしれませんが、私は、彼女のこの「無事に」という言葉にとっても心が温くなりました。

先ほど、大きな事故もなく、と言いました。日常の生活を当たり前で過ごすことができていることが本当にありがたいことである、と言うような話題を、皆さんにはこれまで何度も様々な機会です話してきました。年の初めに、この当たり前のこと、無事に過ごせていることをあらためてしっかり確認することは、新たな年を迎えるこの時期の大事な取り組みだと思います。

そういう意味で、もう昨年という言い方になってしまいますが、大晦日の紅白歌合戦で唄われた作品を紹介します。

竹内まりやさんの「いのちの歌」。

生きていく意味を問いかける彼女自身の作詞（Miyabi という名義になっていますが…）が、村松崇継（たかつぐ）さんの優しすぎるメロディーに乗って流れます。途中、こんな歌詞があります。

「本当にだいじなものは 隠れて見えない

ささやかすぎる日々の中に かけがえない喜びがある」

サン＝テグジュペリの『星の王子様』の「いちばんたいせつなことは、目に見えない」が思い起こされますが、丁寧に毎日生きていくことが大事と教えてくれているようです。

最後はこんな歌詞です。昨年は、Superflyさんの「Gifts」を唄いましたが、今年も少し唄ってみます。

「いつかはだれでも この星にさよならを

する時が来るけれど 命は継がれてゆく

生まれてきたこと 育ててもらえたこと

出会ったこと 笑ったこと そのすべてにありがとう

この命にありがとう」

この冬休み、今年開かれる東京オリンピック、パラリンピックに出場されるアスリートの方や、昨年大活躍だったラグビー「ブレイブブロッサムズ」のメンバーの話を、様々なメディアで聞きました。そこで話されていたことは、「いのちの歌」にも唄われている多くの「感謝の言葉」でした。「ありがとう」の感謝の気持ちを忘れない、そういう年にしていきましょう。